



あ お ぎ り

か

大 里 小 学 校

学 校 だ よ り

NO 9

文 責 三 井

青 桐 の 香

令和5年度全国学力・学習調査の結果から

4月18日(火)全国学力・学習調査(小6・中3対象)が行われました。この調査とは、教科に関する調査(国語・算数)と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれており、①児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題の検証を進め、改善を図る。②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善を図る。③教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。という3つを目的としています。

調査結果は、文部科学省や県から集計・分析結果が送られた後、甲府市教育委員会でも調査結果の分析・考察を行ってまいりました。このたび、同委員会の全国調査の分析・結果報告がまとまり公表されましたので、それに続いて本校の状況や今後の改善策などについてお知らせいたします。本校の子供達の現状について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況調査の改善に取り組めますようによろしくお願いいたします。尚、調査に参加した6学年児童には、個人票をもとに具体的な課題等について説明していく予定です。

調査結果について (参考) 令和5年度全国学力・学習状況調査 教科別平均正答率

	国 語	算 数
全国	67, 2%	62, 5%
県	66%	61%



①本校の状況

国語・算数ともに全国や県と比べて、大幅な差とまではいかないが開きが見られる。

②本校の主な課題

※国語は以下の点に課題が見られた

- ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- ・ 文章の内容にそった漢字を書くことができること。
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができること。
- ・ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができること。

※算数は以下の点に課題が見られた

- ・ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できること。
- ・ 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができること。
- ・ 台形の意味や性質について理解していること。
- ・ ()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができること。
- ・ 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができること。
- ・ 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができること。
- ・ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できること。

③教科における主な改善点

※国語

- ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるような活動を積極的に取り入れるようにする。
- ・ 完成した文章での交流よりも、下書き段階のものをグループ内で交流し、意見交換をすることでより良い文章を書く力を伸ばす。
- ・ 「指示された条件に従って書く」ことを積極的に取り入れることで、目的や意図に応じた文章を書く力を伸ばす。
- ・ 漢字の書き取りは、ミニテスト等を活用しながら、文章の内容にそった漢字が書けるように取り組む。



※算数

- ・ 言葉や式だけでなく、図や数と結び付けて説明する場面を意図的に取り入れるようにすることで、算数的な思考力を伸ばす。
- ・ 生活経験をもとに判断したり、図や式などを用いて、基準量と比較量の関係から計算で求めた結果を関連付けて考えたりできるような指導を日常的に行っていく。
- ・ 基本的な図形や計算の性質等について正しく理解が進むよう、ドリル学習や学習アプリを用いた取り組みを行う。
- ・ 表やグラフを条件を指定しながら読み取り、自分の考えを文章に表すこと活動を積極的に取り入れる。

*内容そのものは基本的なことを聞いている事が多かったですが、国語・算数とも設問が長く、読解力がないと文意をくみ取ることができなと感じました。読書の大切さを痛感しました。

④質問紙調査の主な特徴

- ・ 家庭学習の時間に関する質問以外は、全国や県と比べてほぼ同等の数値という結果となった。
- ・ 自分には良いところがある、先生はあなたの良いところを認めてくれている、学校は楽しい、友達関係に満足している等、自己有用感が高いことがわかった。
- ・ 各教科ともに「勉強は大切だ」と回答した割合は高いが、「各教科の勉強が好き」と回答した児童は全国や県の平均を下回った。
- ・ 読書が好きと回答した割合は、全国や県を上回っている。
- ・ 家庭学習の時間については、全国や県と比べて下回っており、改善の余地が見られる。

⑤質問紙調査からの改善点

- ・ 自己有用感を高めることができるよう、学級経営を充実させきめ細かい指導を継続して行う。
- ・ 主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を行うよう職員一丸となって取り組む。
- ・ ICT機器を効果的に活用していく。また、定期的にICT講習会等を実施し、教師のスキルアップも行う。
- ・ 図書館と連携しながら、楽しく読書活動が進められるような環境を整備し、読書に慣れ親しむ場をつくる。
- ・ 家庭学習の習慣を身につけることができるよう、各学年での取り組みをお便り等で発信し、家庭との連携を進めていく。



